

# 小規模企業の景況

(令和元年10~12月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)令和元年10~12月期の結果概要は以下の通り。今期(令和元年10~12月期)の業況判断D Iは、2期連続で悪化した。今後の見通しでは改善の動きが見られる。業況D I値は前回調査から4.6ポイント悪化、売上額D I値、資金繰りD I値はともに悪化した。従業員数過不足D I値は2期連続で改善して不足感が弱まった。産業別にみると、製造業、卸売業で悪化し、小売業、サービス業で改善した。

## 1. 今期(令和元年10~12月期)の状況

**【売上額】**今期(令和元年10~12月期)の売上額D I値(全産業)は、前回調査(令和元年7~9月期)の(▲19.0)から6.7ポイント悪化し、▲25.7となった。業種別では前回調査から、サービス業が2.4ポイント改善し、製造業が0.1ポイント、卸売業が28.8ポイント、小売業が2.9ポイントそれぞれ悪化した。

**【資金繰り】**今期の資金繰りD I値(全産業)は、前回調査(▲13.6)から6.3ポイント悪化し、▲19.9となった。業種別では前回調査から、卸売業が横ばい、製造業が10.9ポイント、小売業が4.4ポイント、サービス業が8.5ポイントそれぞれ悪化した。

**【業況】**今期の業況D I値(全産業)は、前回調査(▲21.8)から4.6ポイント悪化し、▲26.4となった。業種別では前回調査から、製造業が0.4ポイント、卸売業が6.1ポイント、小売業が4.3ポイント、サービス業が7.3ポイントそれぞれ悪化した。

**【従業員】**今期の従業員D I値(全産業)は、前回調査(▲17.0)から1.2ポイント改善し、▲15.8となった。業種別では前回調査から、小売業が4.3ポイント、サービス業が6.0ポイントそれぞれ改善し、製造業が4.4ポイント、卸売業が1.5ポイントそれぞれ悪化した。

## 2. 来期(令和2年1~3月期)の予想

来期(令和2年1~3月期)の全産業の予想D I値は、売上額▲21.9、資金繰り▲17.5、業況▲23.6となった。

## 3. 経営上の問題点

第1位は、製造業・卸売業が「需要の停滞」、小売業・サービス業が「利用者ニーズの変化への対応」となった。

※D I値とは……ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(平成30年10月~12月期)と比較して売上額、業況、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

本件担当：大阪商工会議所 中小企業振興部 経営相談室 06-6944-6451

## 【調査の概要】

- ・調査名：第158回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
  - ・調査時期：令和元年11月7日～11月15日（前回：令和元年8月23日～9月1日）
  - ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
  - ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
    - ※ 全国7,983件中、大阪商工会議所分323件。
    - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）292件について取りまとめた。
- 〔製造業74件、卸売業66件、小売業69件、サービス業83件〕

## ■DI値推移（全産業）

	155回調査	156回調査	157回調査 (前回)		158回調査 (今回)	
	H31(2019年) 1～3月期	R1(2019年) 4～6月期	R1(2019年) 7～9月期	R1(2019年) 10～12月期	R1(2019年) 10～12月期	R2(2020年) 1～3月期
売上額（増-減）	-19.1	-16.3	-19.0	-22.4	-25.7	-21.9
資金繰り（好-悪）	-11.5	-12.6	-13.6	-15.3	-19.9	-17.5
業況（好-悪）	-17.0	-16.3	-21.8	-20.7	-26.4	-23.6
従業員（過-不）	-17.0	-18.4	-17.0		-15.8	

## ■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	需要の停滞 →	14 (15)	需要の停滞 →	25 (22)	消費者ニーズの 変化への対応 ↑	14 (9)	利用者ニーズ の変化への対 応 →	15 (14)
2位	製品ニーズの 変化への対応 ↑	10 (8)	仕入単価の上 昇 ↑	9 (5)	大型店・中型店 の進出による競 争の激化 →	13 (11)	需要の停滞 →	11 (8)
3位	生産設備の不 足・老朽化 ↓ 製品（加工） 単価の低下・ 上昇難 ↓	8 (9) 8 (9)	販売単価の低 下・上昇難 ↓ 従業員の確保難 ↑ 新規参入業者 の増加 ↑	4 (6) 4 (4) 4 (2)	需要の停滞 ↓ 販売単価の低 下・上昇難 ↑	8 (12) 8 (4)	その他 ↑	10 (6)

〔注〕（ ）内は前回（令和元年7～9月期）調査結果

↑＝前回より高順位

→＝前回と同順位

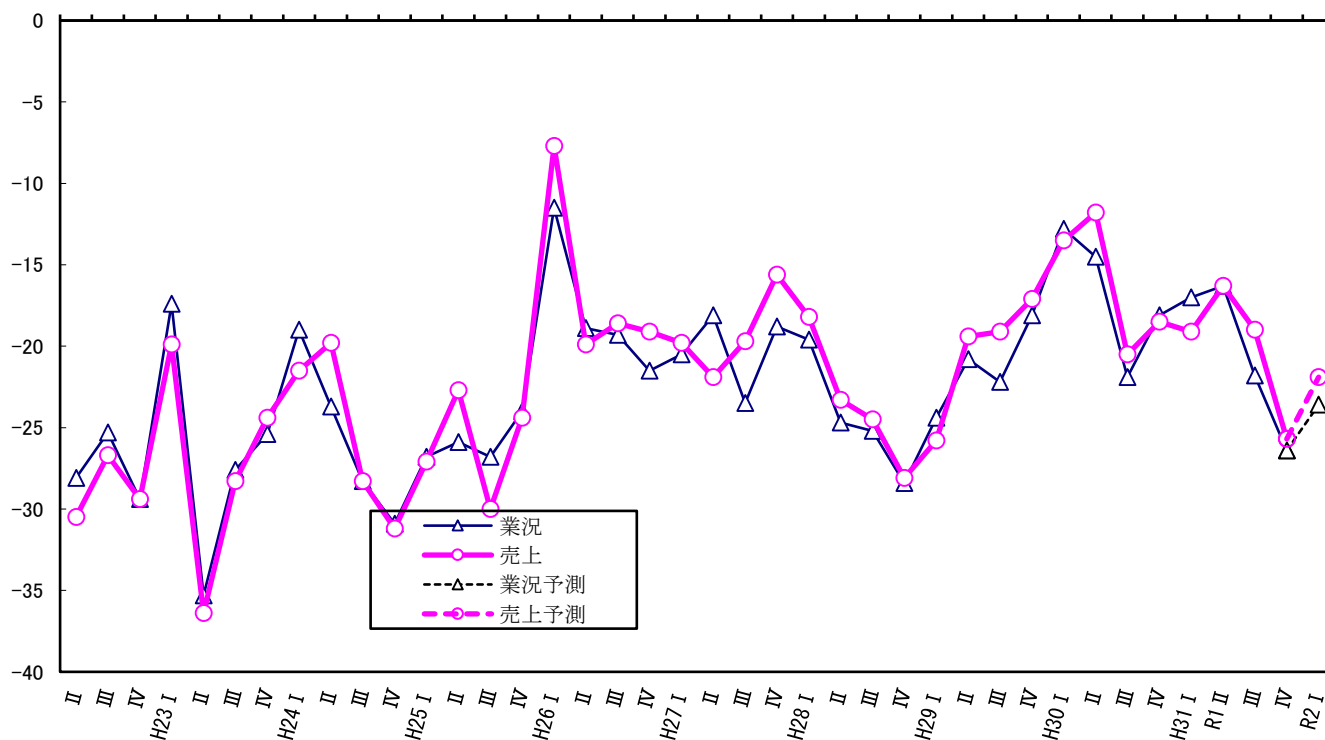
↓＝前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(10～12月期)				前回(7～9月期)からの推移	来期の予想(1～3月期)			
		増加	不変	減少	増一減		増加	不変	減少	増一減
売上額										
	製造業	28.4	37.8	33.8	▲ 5.4	▲ 0.1	13.5	48.6	37.8	▲ 24.3
	卸売業	10.6	25.8	63.6	▲ 53.0	▲ 28.8	12.1	43.9	43.9	▲ 31.8
	小売業	13.0	27.5	59.4	▲ 46.4	▲ 2.9	17.4	37.7	44.9	▲ 27.5
	サービス業	24.1	47.0	28.9	▲ 4.8	2.4	20.5	50.6	27.7	▲ 7.2
	合計	19.5	35.3	45.2	▲ 25.7	▲ 6.7	16.1	45.5	38.0	▲ 21.9
	前回	20.4	40.1	39.5	▲ 19.0		18.7	39.8	41.2	▲ 22.4
資金繰り		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	4.1	77.0	17.6	▲ 13.5	▲ 10.9	2.7	82.4	13.5	▲ 10.8
	卸売業	1.5	72.7	24.2	▲ 22.7	0.0	1.5	74.2	22.7	▲ 21.2
	小売業	4.3	60.9	33.3	▲ 29.0	▲ 4.4	4.3	60.9	33.3	▲ 29.0
	サービス業	2.4	78.3	18.1	▲ 15.7	▲ 8.5	7.2	73.5	18.1	▲ 10.8
	合計	3.1	72.6	22.9	▲ 19.9	▲ 6.3	4.1	72.9	21.6	▲ 17.5
	前回	6.8	72.1	20.4	▲ 13.6		7.1	69.4	22.4	▲ 15.3
業況		好転	不変	悪化	好一悪		好転	不変	悪化	好一悪
	製造業	14.9	58.1	27.0	▲ 12.2	▲ 0.4	5.4	59.5	32.4	▲ 27.0
	卸売業	10.6	39.4	48.5	▲ 37.9	▲ 6.1	7.6	43.9	42.4	▲ 34.8
	小売業	7.2	43.5	49.3	▲ 42.0	▲ 4.3	14.5	47.8	36.2	▲ 21.7
	サービス業	13.3	56.6	30.1	▲ 16.9	▲ 7.3	13.3	60.2	26.5	▲ 13.3
	合計	11.6	50.0	38.0	▲ 26.4	▲ 4.6	10.3	53.4	33.9	▲ 23.6
	前回	13.6	50.0	35.4	▲ 21.8		14.3	48.3	35.0	▲ 20.7
従業員		過剰	適正	不足	過一不					
	製造業	2.7	73.0	20.3	▲ 17.6	▲ 4.4				
	卸売業	1.5	80.3	13.6	▲ 12.1	▲ 1.5				
	小売業	1.4	76.8	10.1	▲ 8.7	4.3				
	サービス業	2.4	69.9	25.3	▲ 22.9	6.0				
	合計	2.1	74.7	17.8	▲ 15.8	1.2				
	前回	2.4	72.4	19.4	▲ 17.0					

「今期の状況（除従業員）」は令和1年10～12月期状況であり、前年同期の平成30年10～12月期との比較。来期の予想は令和2年1～3月期予想であり、平成31年1～3月期との比較である。「前回」欄は令和1年7～9月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値=D I（増加・好転-減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※令和2年 I は予想値